

お口爽やかですか

テーマ 集団フッ化物洗口全国実施調査

全国5,133施設で約49万人が幼稚園・保育所・小中学校でフッ化物洗口を実施

むし歯予防法の順位において、WHO（世界保健機関）は水道水のフッリテーションを第1位に、フッ化物洗口法や塗布の局所応用を第2位に上げています。

特に、フッ化物洗口法は週1回1分間のブクブクうがいを4歳～14歳まで続けることにより、30～80%の永久歯のむし歯を防ぐことが出来ることが国から報告されています。

2003年1月、厚生労働省は都道府県知事宛に「むし歯予防のためのフッ化物洗口ガイドライン」を示し、「国が効果と安全性に責任を取る」との普及姿勢を通過しました。

さて、本年4月1日現在の、幼稚園・保育所・小中学校などの集団の場でのフッ化物洗口全国実施調査の

結果が、NPO日本むし歯予防フッ素推進会議から出されました。

この調査は、2年に1回8020財団の要請で実施しているもので、前回の2004年に比較して1210施設、9万4千632人と大幅に増加し、5133施設、約49万人となっています。

1万人以上が実施している府県は11

実施人数が1万人以上の府県は、北から山形、新潟、富山、長野、静岡、愛知、京都、山口、香川、愛媛、佐賀の11でした。多い順では、新潟（約8万人）、愛知（約7万人）、静岡（約4万人）、佐賀（約3・5万人）、富山（約2・5万人）でした。

注目することは、小学生の52%が実施している新潟県の中学1年生の永久歯のむし歯数が全国一少なく、北海道の3分の1以下と報告されています。

めざましい増加の愛知、佐賀、山口、静岡、埼玉

増加人数を2002年と比較すると、愛知県は5万2千人、佐賀県は2万1千人、山口県1万8千人、静岡県1万5千人、埼玉県1万3千人が増加しています。これは、県と県歯科医師会が推進している結果で、ちなみに静岡県は現在の日本歯科医師会の大久保会長がこの3月まで県の会長をされていました。

北海道は137施設、7840人で伸び悩み

しかし、北海道では全国的なすう勢に遅れ、多くの府県の普及活動に取り残され、今回はむしろわずかに減少しています。北海道の子供たちの将来の健康を考えると、憂慮するべき事態といえます。関係各位のご理解と奮起を促したいと考えております。

集団フッ化物洗口法・5133施設・約49万人

